

(2) 授業改善に向けて意識したいこと

県調査に見られる課題解決に向け、授業改善の重点事項を取り入れた単元づくりを行うには、「単元を通して考え、理解させること」「生徒の主体的な学びにすること」を意識することが必要だと考えます。中学校学習指導要領解説社会編においても、生徒の興味・関心を高め、自ら課題を見だし、自ら学び自ら考え、課題を解決する力を育成するために、問題解決的な学習の充実を図ることが求められています。そのためには、単元の全体像を把握し、学習問題を柱に単元を再構成することが考えられます(図2)。

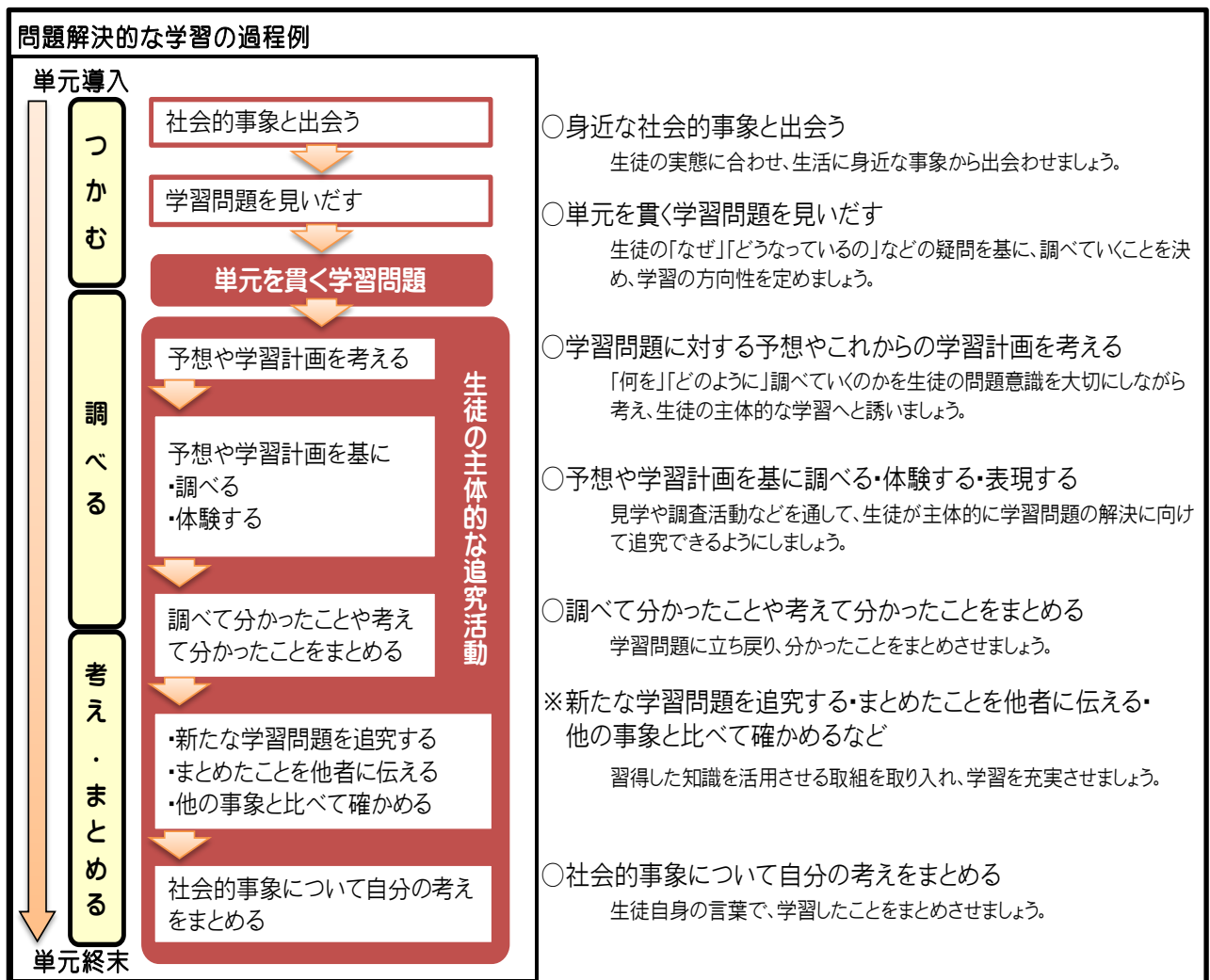


図2 問題解決的な学習の過程例

単元を通して考え、理解させる

中学校社会科において各単元の目標を達成するには、単元を通じた計画的な指導に取り組むことが大切です。そのために、次の2点に気を付けて単元計画を立ててみると、単元を見通した全体像を把握することができると思います。

① 「単元を通して考え、理解させる」ための指導計画

各単元の目標を達成するには、各単元で扱う内容を吟味し、どのように身に付けさせるかを考えることが大切です。限られた時間の中で、内容と方法を一体化して習得させるには、単元全体を把握して指導計画を立てることが必要と考えます。習得した知識を活用し多面的・多角的に考えるような学習活動を単元の中に意図的に仕組み、問題解決的な学習が展開されるように単元を再構成します。その際、「生徒が単元を通して学習する問題（単元を貫く学習問題）」を設定し、その解決に向けて学習内容がつながるように意識させることが大切です。

② 単元を貫く学習問題の設定

単元を貫く学習問題は、生徒にとって学習の目的となります。そして、学習問題の解決に向けて生徒が学習(追究活動)を進めていくと、教師にとっては単元の目標が実現できることとなります。学習問題を設定するに当たっては、生徒が社会的事象に出会って関心を向け、生徒の気付きや疑問から「解決したい問題」となるように、教師と生徒で共に学習問題をつくっていく学習活動が必要であると考えます。

生徒の主体的な学びにする

単元を通して生徒の主体的な学びを展開するためには、学習の目的を明確にする必要があります。つまり、単元の学習問題に対して「何がどのように問題なのか」「なぜ調べるのか」という問題意識をもたせ、追究活動や表現活動を展開する必要があると考えます。そのために、次の3点に気を付けて指導に取り組むと、生徒の意欲が継続すると考えます。

① 社会的な問題を吟味して設定する学習問題

単元の「つかむ」段階において、生徒が社会的事象に出会う場面を大切にしたいと考えます。そこでは、社会的事象に関する社会的な問題を取り上げ、「何がどのように問題なのか」具体的な事実を資料などで提示して生徒に関心をもたせることが大切です。また、そこから生まれる生徒の気付きや疑問を発展させて、学級全体で追究・解決する学習問題を見いだす場面を設定します。ここで設定される学習問題の文型は、疑問形にすると次のようなものが考えられます。

- ・「どのように(な)～だろう」・・・事実を調べる活動に向かう
- ・「なぜ～(しているの)だろう」・・・社会的事象の意味を考える活動に向かう
- ・「どちらが(何が)～だろう」・・・社会的事象の意義や課題を判断する活動に向かう
- ・「どうすれば～だろう」・・・現代社会の課題の解決策を考える活動に向かう

② 習得した知識を活用させるための学習課題

単元の「調べる」段階においては、習得した知識をキーワード等でまとめさせ、単元の「まとめる」段階に活用することを意識して整理させたいと考えます。ここでは、次のような学習課題(本時のめあて)を適切に位置付けて、習得した知識や概念を活用させて単元を貫く学習問題が解決されるように意図することが大切です。

- ・事実を集めるための学習課題
- ・集めた事実を整理するための学習課題
- ・集めた事実から社会的事象の特色や意味を考える学習課題

③ 調べて分かったことや考えたことを論述する手立て

単元の「まとめる」段階では、学習したことを振り返り、単元を貫く学習問題に照らして結論を導き出させることを意識したいと考えます。ここでは、学習してきたことの全体像をつかみ、社会的事象の意味や意義について考えることができるように指導します。また、新たな資料で生徒の思考を揺さぶり、現代社会の課題について考えさせたり、他の視点から捉え直したりする意思決定場面を設定し、多面的・多角的な考察や公正な判断を促すような指導も考えられます。